

テントウノミハムシ

春から夏にタモやイボタなどモクセイ科の各種樹木の葉に潜るイモムシ（幼虫）。最大長約5～6mm。黄白色。成虫はテントウムシ形、夏から秋に葉を食べる。体長3～4mm。色は黒色、黄色、黄色地に黒点など様々。

北海道ではヤチダモ人工林で過去に被害記録が1例ある。



1. 葉に潜る幼虫。1991/7/1。新得町の庭のアオダモ。 2. 羽化直後の成虫，体長3.5mm。1を飼育。

【学名】 *Agropistes biplagiatus*

【分類】 甲虫目 (Coleoptera) , ハムシ科 (Chrysomelidae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；シベリア東部，朝鮮半島。

【生態】

宿主：モクセイ科（ヤチダモ，アオダモ，イボタ，ハシドイなど）。

年1回発生。成虫越冬。成虫はヤチダモの新芽が開くころあられ、5～6月に産卵。幼虫は6～7月に葉を食害し、7月に土中で蛹になる。夏に精虫が羽化し、秋まで葉を食べて過ごす。10月に落葉中に潜って越冬する。

【被害】

北海道胆振鶴川町のヤチダモ造林地で1949～50年に大発生し、枯死木を発生させた記録がある（文献1951）。ただ、これ以外に被害記録はないようである。

【文献】

1950. 内田登一. ヤチダモを害する *Agropistes* 属のハムシに就いて. 昆虫, 18: 154-155. (生態)

1951. 内田登一. BHC及びDDTによる2種の森林害虫の防除. 農薬と病虫, 5: 31-32. (殺虫剤による駆除)

1951. 井上元則・篠原均. ヤチダモを害するテントウノミハムシについて. 日本林学会誌, 33: 247-250. (被害記録)

1953. 井上元則. 林業害虫防除論, 中巻. 293p. 地球出版, 東京. (形態や生態の概論)

1963. 中根猛彦ほか. 原色日本昆虫大図鑑II (甲虫篇) : 1-18, 1-443, pls 1-192. 北隆館, 東京.
1977. 小林富士雄. 緑化樹木の病害虫 (下) 害虫とその防除. 290pp. 日本林業技術協会, 東京.
1990. 井上大成. テントウノミハムシ *Argopistes biplagiatus* Motschulsky の千葉県における加害様相と発生経過. 日本応用動物昆虫学会誌, (生態)
1990. 井上大成. テントウノミハムシ属 (*Argopistes*) 2種の樹上における生息習性の比較. 日本応用動物昆虫学会誌, 34 : 217-226. (生態)
1994. 木元新作, 滝沢春雄. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539p. 東海大学出版会, 東京. (分類, 形態, 寄主)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

テントウノミハムシ hamusi/tentonom/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1992/2/8-2001/3/11.

1yochu.JPG, 1seichu.JPG

「写真1～2」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991.